

生鮮食品流通の効率化と企業経営基盤の強化を目指して

# 食肉標準物流バーコード 導入・利用マニュアル

財団法人 食品流通構造改善促進機構



017201(11)010713(32)

## はじめに

(財)食品流通構造改善促進機構では農林水産省の補助事業として、平成9年度～13年度の5ヵ年計画で「食品流通情報化基盤開発事業」(12年度までは「生鮮食品等取引電子化基盤開発事業」)を推進しております。

この事業は、青果・食肉・水産物・花きの生鮮4品について、取引電子化の基盤となる商品コード体系とEDIメッセージの標準化を行うもので、食肉では平成12年9月に、主要な畜種の部分肉及び精肉の標準商品コード体系を定めるとともに、15種類のEDI標準メッセージを第1次バージョンとして策定しました。

「食肉標準物流バーコードラベル」は、今回標準化された商品コードやEDIメッセージの利用効果をより高めるために開発したもので、部分肉製造段階でカートンに貼付し、主に、製造業者の出荷管理業務、卸売会社の入出荷管理・梱卸し業務で利用されることを想定しています。

食肉は国際的にもUCC/EAN - 128体系による物流バーコードの表示が進んでおり、物流管理に利用されているほか、出生・肥育段階への追跡システムに欠かせないインフラとなりつつあります。

このように、国際的な潮流となっている食肉標準物流バーコードを、国内の食肉流通業界でも推進して行くための手引書として本マニュアルを作成しました。

本マニュアルが食肉流通業界における取引電子化の普及促進の一助となることを願って止みません。

財団法人 **食品流通構造改善促進機構**

# 目 次

第1章	物流バーコード利用概説	1
1-1	食肉流通と物流バーコードの標準化	1
1	食肉標準物流バーコードへの期待	1
2	標準化の基本的な考え方	2
	【2種類の標準物流バーコード - ITFとUCC/EAN - 128】	3
	【UCC/EAN - 128とは】	4
1-2	食肉標準物流バーコードの体系	5
1	基本バーコード(必須)	5
2	補助バーコード(オプション)	7
	【物流バーコードにおける個体識別情報の管理方法について】	8
	(参考) 明細バーコードについて	11
	【チェックデジットの計算方法】	12
1-3	バーコードラベルの種類	13
1	ラベルの様式	13
2	梱包タイプとラベル様式	15
1-4	導入手順と利用モデル	16
1	導入手順	16
2	利用モデル	18
第2章	ラベルの発行と貼付	21
2-1	ラベルの基本要件	21
1	ラベルに表示する文字情報	21
2	ラベルの貼付位置	24
2-2	ラベル発行の仕組み	25
1	ラベル発行の留意点	25
	【プリンタ、ラベルの利用環境条件】	26
2	ラベルプリンタ選定のポイント	27
3	ラベル選定のポイント	29
4	機器構成例	31
	【バーコードの品質向上に向けて】	32

第3章 バーコードの読み取り .....33

3 - 1 バーコードリーダーの種類と特徴 .....33

1 . 固定式スキャナ .....33

2 . 手持ち式スキャナ .....34

3 . スキャナー一体型ハンディターミナル .....35

4 . スキャナの光源 .....35

3 - 2 運用上の留意点 .....36

1 . エラー発生時の対応 .....36

【UCC/EAN - 128対応スキャナ特有の留意点】 .....37

2 . 基本構成例 .....38

【食肉特有の環境で留意すべきこと】 .....40

巻末資料

1 . 食肉標準品名コード表 .....41

2 . 基本用語集 .....48

3 . 関連資料紹介 .....49